

第 61 回富山県発明とくふう展 内容説明書 (令和 5 年度)

		受付番号	637	学校No.	37
ふりがな	ふじた しょうき		学校名	滑川市立南部小学校	
氏名	藤田 尚暉		学年	6年	
ふりがな	しゅどうあるみかんかいしゅうき おしてぼん				
作品の名称	手動アルミ缶回収機 オシテポン				
(特 徴)					
・アルミ缶を押しつぶし、本体の下の袋にためることで、アルミ缶のたまり具合が見て分かり、アルミ缶をたくさんためてリサイクルしようという気になる。					
・本体は軽いので持ち運びしやすく、室内だけでなく、屋外での活動時にも持っていくことができ、便利である。					
・袋にアルミ缶がたまったら、オシテポンの本体を抜き、袋ごとリサイクル場所に持って行くことができる。					
・本体を新しい袋に入れて洗濯ばさみでとめ、すぐに使うことができ、手軽である。					
(使い方)					
①アルミ缶回収機の上に缶を置き、棒を押しつけて缶をへこませる。					
②アルミ缶がへこんで小さくなったら、下の袋にポンと入れる。					
③袋に缶がたまったら、洗濯ばさみはずし、袋ごと資源回収場所に持って行く。					
④新しい袋を本体に取り付ける。軽いので持ち運びしやすく便利で、進んでリサイクルしようという気になる。					
◇ 作品を作った動機や参考にしたものがあれば、下記 ( ) の中に○印をつけて下さい。					
① ( ) テレビ、科学雑誌、参考図書など					
② ( ) 発明くふう展、科学館、大学祭、各種のイベントから					
③ ( ) 講師や先生、両親などからヒントをもらった					
④ ( ) 発明クラブ、理科の学習、各種工作教室から					
⑤ (○) その他、自分で考えた					

略図 (鉛筆書きでもよい) 又は写真を貼り付けて作品の特徴を説明して下さい。  
(※審査用にコピー (縮小) しますので、濃く見やすく作成してください。)

- ・本体の上のふたに取り付けたつっぱり棒を、てこの原理で押し、アルミ缶をつぶすことで、かさを小さくする。
- ・本体の上のふたの裏に金属フックを取り付ける。つっぱり棒で押しと金属フックの強い力で缶をへこませる。
- ・アルミ缶を押しつぶすとき、缶がずれないように左右をすき間テープで固定した所にアルミ缶をおく。
- ・押しつぶしたアルミ缶を本体の袋にポンと入れることで、アルミ缶のたまり具合が見てわかる。
- ・アルミ缶を入れる透明な袋は本体に取り付けた洗濯ばさみでとめ、取りはずしが簡単である。
- ・袋にアルミ缶がたまったら、オシテポンの本体を袋から抜き、袋ごとそのままリサイクル場所に出すことができる。
- ・本体は植木鉢スタンドを再利用しており、軽くて丈夫であり、持ち運びしやすい。室内だけでなくキャンプなど屋外での活動時にも使いやすく便利である。



【記載注意事項】

1. この説明書は、審査用、展示用カードとして用いられますので必ずご記入下さい。
2. 従来のも (方法) と比べて、どこを (何を) どのようにくふうしたか、要点をわかりやすく、図または写真でご説明下さい。
3. 改良くふう箇所が多くある場合、要点をしぼってご記入願います。
4. この内容説明書は出品申込書と一緒に一覧表を添えて、令和5年9月20日 (水) までに事務局へ提出して下さい。